

## 第1章 計画の概要

### 1. 計画の基本的事項

#### (1) 計画策定の趣旨

奈良県では、平成13(2001)年7月に「健康なら21計画」を策定し、健康寿命の延伸と早世の減少を柱に取組を進めてきました。そして、急速に高齢化が進展する中、「健康寿命日本一を目指す」とする県の方向性をより明確にし、保健、医療、福祉、介護等の関連施策を総合的かつ統一的に推進するため、各分野の計画に横串を指す形での計画として、平成25(2013)年7月、「なら健康長寿基本計画」(以降「第1期基本計画」という。)を策定しました。第1期基本計画では、健康寿命の延伸にかかる重点健康指標を設定し、毎年評価を行うとともに、市町村との連携を基本に効果的な施策を推進してきました。

その結果、奈良県民の健康寿命(65歳平均自立期間)は、男性は平成19(2007)年の17.07年(全国16位)から令和3(2021)年の18.95年(全国3位)まで上昇し、女性は平成19(2007)年の20.18年(全国34位)から令和3(2021)年の21.46年(全国21位)まで上昇しました。しかしながら、平均要介護期間は男女ともに延長し、全国順位も下がっていることから、更なる取組の充実が必要となっています。

このたび、第1期基本計画の計画期間の終了に伴い、「国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針」に基づいて推進する「21世紀における第三次国民健康づくり運動(健康日本21(第三次))」も踏まえ、令和6(2023)年度からの12年間を計画期間とする「なら健康長寿基本計画(第2期)」(以降「第2期基本計画」という。)を策定します。第2期基本計画においては、引き続き「健康寿命日本一」の実現に向け、要介護とならないための健康づくりや予防に加え、生涯を通じた県民の健康づくりを支える環境づくりのための施策を市町村や県民・事業者等との連携のもと、強力で推進してまいります。

## (5)最期まで自分らしく生きる支援

### めざす姿

- ・医療と介護の両方を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で人生の最期まで自分らしく生活できる
- ・認知症について正しく理解し、適切な医療・相談を受けることができる

### 基本的な考え方

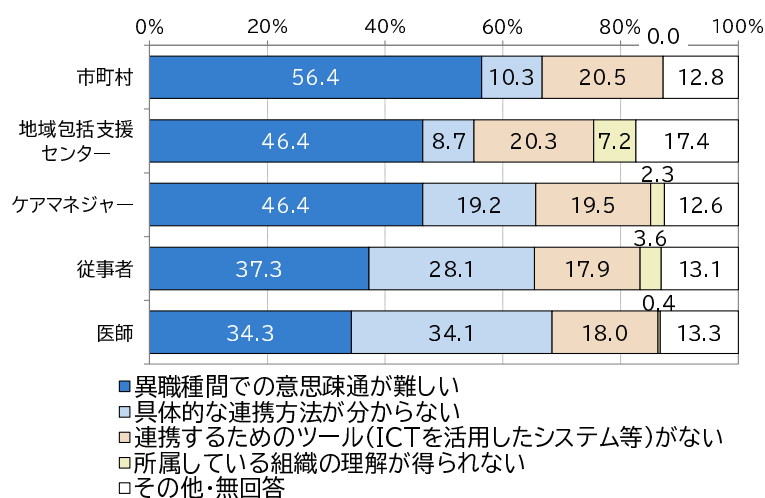
医療と介護の両方を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で人生の最期まで自分らしく生活できるためには、在宅医療と介護を一体的に提供することや、自らが望む最終段階における医療・ケアについて考える機会をもつこと(ACP:人生会議)が重要となります。

また、認知症についての正しい知識をもち、認知症の人やその家族をさりげなく見守る認知症サポーターを増やしていく取組を推進します。

### 現状と課題

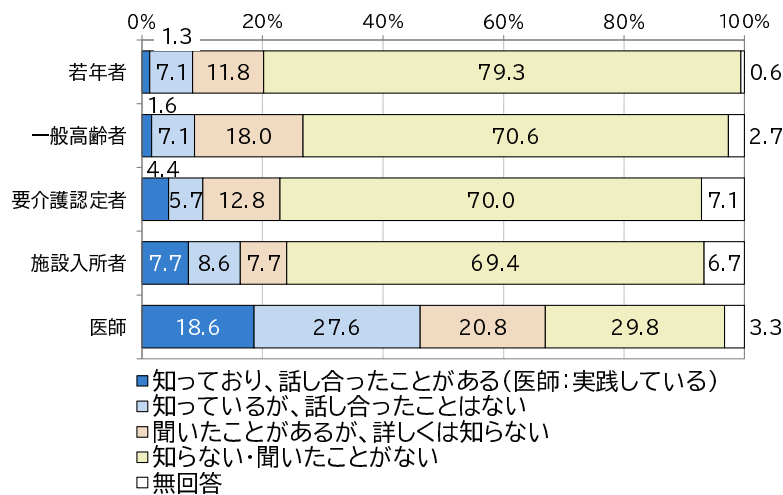
- 在宅医療と介護が連携した取組を充実するには、市町村が「入退院支援」、「日常の療養支援」、「急変時の対応」、「看取り」の4つの場面を意識することが重要です。
- 多職種連携における課題としては「異職種間での意思疎通が難しい」が最も多く、異なる職種間での円滑な連携を推進していく必要があります。
- 「令和4年度高齢者の生活・介護等に関する県民調査」によると、ACPについては、いずれの対象者においても、「知らない・聞いたことがない」が最も多くなっています。
- 奈良県における認知症サポーター養成数は、人口の約10%です。

図 51: 多職種連携の課題



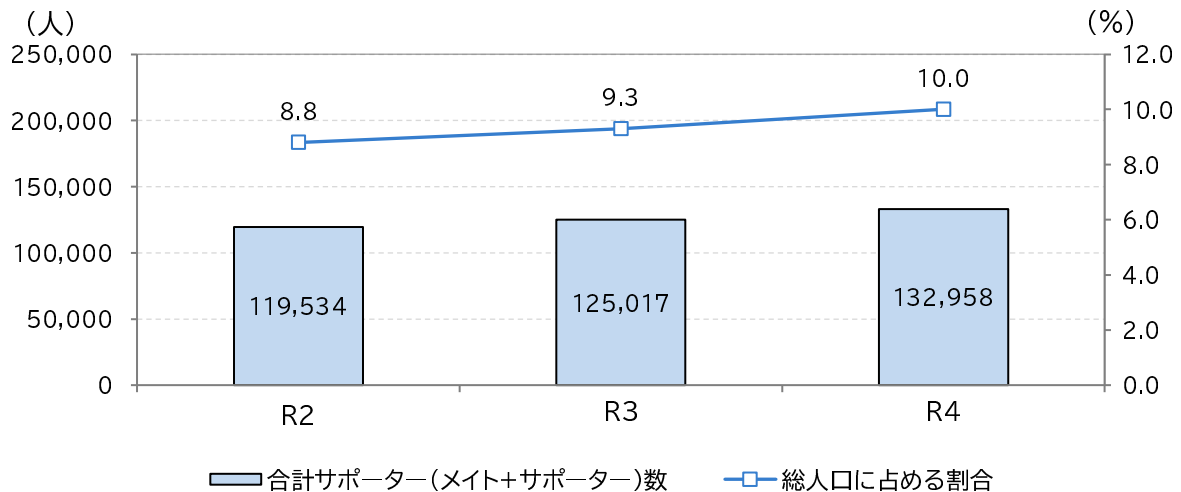
出典: 奈良県「令和4年度高齢者の生活・介護等に関する県民調査」

図 52:ACPIについて



出典:奈良県「令和4年度高齢者の生活・介護等に関する県民調査」

図 53:認知症サポーター養成数



出典:特定非営利活動法人 地域共生政策自治体連携機構「サポーターの養成状況」

## 施策

各市町村が「入退院支援」、「日常の療養支援」、「急変時の対応」、「看取り」の4つの場面における PDCA を踏まえた在宅医療・介護連携推進を図るため、協議の場の立ち上げ及び効果的な運用に向けた支援を行います。

自らが望む最終段階における医療・ケアについて考える機会をもつことの重要性について普及啓発を行います。

認知症に対する正しい理解の普及・啓発、適時・適切な医療・介護等の提供、認知症の人やその介護者への支援に向けた市町村等の体制構築整備に対する支援を行います。

## 主な取組例

- 在宅医療・介護連携の推進にむけた協議の場の立ち上げ及び効果的な運用についての市町村支援
- ACP(人生会議)の普及・啓発
- 本人が自分らしく生きるための意思決定ができ、それを支える環境をつくるため、県と市町村及び医師会等の関係団体が連携し、ACPの普及・啓発の推進
- ACPの普及等に係る優良事例の横展開を図る
- ACPの普及を契機として、人生の最終局面だけではなく、健康な時から自らの生き方について考える機会を創出
- 認知症に対する正しい理解の普及・促進
- 認知症の人本人の想いの発信機会創出
- 認知症サポーターと講師役であるキャラバン・メイトの養成

## ◆指標

	指標名	現状値 (R4)	目標値 (R16)	目標値の考え方	把握方法
68	在宅医療・介護連携に係る協議の場を設置する市町村数	23市町村 (R5)	増加 (R8)	奈良県 高齢者福祉計画 第9期介護保険事業支援計画 認知症施策推進計画の目標値と同様	在宅医療・介護連携推進事業の実施状況等に関する調査(厚生労働省)
69	ACPの普及・啓発に取り組む市町村数	17市町村	39市町村	奈良県 高齢者福祉計画 第9期介護保険事業支援計画 認知症施策推進計画の目標値と同様	介護保険課調べ
70	認知症サポーター養成数	132,958人	158,800人 (R7)	奈良県 高齢者福祉計画 第9期介護保険事業支援計画 認知症施策推進計画の目標値と同様	サポーター養成状況(特定非営利活動法人地域共生政策自治体連携機構)